

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース:理学療法士科Ⅱ部		学年	4	開講区分	後期	担当教員 田中 信一 先生			
授業科目名 国家試験対策講座Ⅱ		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 人間の運動機能の基礎となる骨格と関節の基礎を習得する授業を臨床現場でリハビリテーションに携わっている教員が行なう。国家試験の合格に向け、主に基礎医学系科目を中心に必要となる科目を再度復習する。									
〔到達目標〕 国家試験に必要な科目に関する内容を理解し、合格に必要な基本的知識を他者に説明することができる。 過去10年間に出题された科目に目を通し、出題の傾向を把握する。									
〔使用教材、参考文献等〕 プリント中心 各自参考書は持ってくる									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション解剖学の復習 骨			グループで学びあいながら復習できる					
2	解剖学問題解答			解答力をつける					
3	解剖学 GW			グループで学びあいながら復習できる					
4	解剖学の復習 関節			グループで学びあいながら復習できる					
5	解剖学問題演習			解答力をつける					
6	解剖学 GW			グループで学びあいながら復習できる					
7	解剖学の復習 内臓			グループで学びあいながら復習できる					
8	確認テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める					
9	解剖学の復習 末梢神経			グループで学びあいながら復習できる					
10	解剖学問題演習			解答力をつける					
11	解剖学の復習 中枢神経			グループで学びあいながら復習できる					
12	解剖学問題演習			解答力をつける					
13	解剖学 GW			グループで学びあいながら復習できる					
14	過去問題			解答力をつける					
15	期末テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			〔特記事項〕 国家試験に対応できるように予習復習を自主的に行う。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	4	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名		国家試験対策講座Ⅱ		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 人間の運動機能の基礎となる骨格と関節の基礎を習得する授業を臨床現場でリハビリテーションに携わっている教員が行なう。国家試験の合格に向け、主に基礎医学系科目を中心に必要となる科目を再度復習する。											
〔到達目標〕 国家試験に必要な科目に関する内容を理解し、合格に必要な基本的知識を他者に説明することができる。 過去10年間に出题された科目に目を通し、出題の傾向を把握する。											
〔使用教材、参考文献等〕 プリント中心 各自参考書は持ってくる											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	解剖学の復習 中枢神経					グループで学びあいながら復習できる					
2	解剖学問題解答					解答力をつける					
3	解剖学 GW					グループで学びあいながら復習できる					
4	解剖学の復習 中枢神経					グループで学びあいながら復習できる					
5	解剖学問題演習					解答力をつける					
6	解剖学 GW					グループで学びあいながら復習できる					
7	解剖学の復習 中枢神経					グループで学びあいながら復習できる					
8	確認テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める					
9	解剖学の復習 末梢神経					グループで学びあいながら復習できる					
10	解剖学問題演習					解答力をつける					
11	生理学の復習					グループで学びあいながら復習できる					
12	生理学問題演習					解答力をつける					
13	生理学 GW					グループで学びあいながら復習できる					
14	過去問題					解答力をつける					
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 国家試験に対応できるように予習復習を自主的に行う。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	4	開講区分	後期	担当教員 田中 信一 先生			
授業科目名 国家試験対策講座Ⅱ		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 人間の運動機能の基礎となる骨格と関節の基礎を習得する授業を臨床現場でリハビリテーションに携わっている教員が行なう。国家試験の合格に向け、主に基礎医学系科目を中心に必要となる科目を再度復習する。									
〔到達目標〕 国家試験に必要な科目に関する内容を理解し、合格に必要な基本的知識を他者に説明することができる。 過去10年間に出题された科目に目を通し、出題の傾向を把握する。									
〔使用教材、参考文献等〕 プリント中心 各自参考書は持ってくること									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	生理学の復習			グループで学びあいながら復習できる					
2	生理学問題解答			解答力をつける					
3	生理学 GW			グループで学びあいながら復習できる					
4	生理学の復習			グループで学びあいながら復習できる					
5	生理学問題演習			解答力をつける					
6	生理学 GW			グループで学びあいながら復習できる					
7	生理学の過去問題			解答力をつける					
8	確認テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める					
9	運動学の復習			グループで学びあいながら復習できる					
10	運動学問題演習			解答力をつける					
11	運動学の復習			グループで学びあいながら復習できる					
12	運動学問題演習			解答力をつける					
13	運動学の復習			グループで学びあいながら復習できる					
14	運動学過去問題解答			解答力をつける					
15	期末テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 国家試験に対応できるように予習復習を自主的に行う。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	4	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名						本田 勝久 先生			
国家試験対策講座Ⅱ		必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 理学療法士として臨床で現場でリハビリテーションに貢献している教員が、国家試験の合格に向け、運動器系科目必要となる科目を再度復習する。									
〔到達目標〕 国家試験に必要な科目に関する内容を理解し、合格に必要な基本的知識を他者に説明することができる。 過去10年間に出题された科目に目を通し、出題の傾向を把握する。									
〔使用教材、参考文献等〕 プリント中心 各自参考書は持ってくる									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	運動学の復習			グループで学びあいながら復習できる					
2	運動学問題演習			解答力をつける					
3	運動学 GW			グループで学びあいながら復習できる					
4	運動学の復習			グループで学びあいながら復習できる					
5	運動学問題演習			解答力をつける					
6	運動学 GW			グループで学びあいながら復習できる					
7	運動学の過去問題解答			解答力をつける					
8	確認テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める					
9	運動学の復習			グループで学びあいながら復習できる					
10	運動学問題演習			解答力をつける					
11	運動学の復習			グループで学びあいながら復習できる					
12	運動学問題演習			解答力をつける					
13	運動学の復習			グループで学びあいながら復習できる					
14	運動学過去問題解答			解答力をつける					
15	期末テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 国家試験に対応できるように予習復習を自主的に行う。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース:理学療法士科Ⅱ部		学年	4	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名						本田 勝久 先生			
国家試験対策講座Ⅱ		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 理学療法士として臨床で現場でリハビリテーションに貢献している教員が、国家試験の合格に向け、臨床医学系科目で必要となる項目を再度復習する。国家試験の合格に向け、必要となる科目を再度復習する。									
〔到達目標〕 国家試験に必要な科目に関する内容を理解し、合格に必要な基本的知識を他者に説明することができる。 過去10年間に出题された科目に目を通し、出題の傾向を把握する。									
〔使用教材、参考文献等〕 プリント中心 各自参考書は持ってくる									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	病理学の復習			グループで学びあいながら復習できる					
2	病理学問題演習			解答力をつける					
3	病理学 GW			グループで学びあいながら復習できる					
4	病理学の復習			グループで学びあいながら復習できる					
5	病理学問題演習			解答力をつける					
6	病理学 GW			グループで学びあいながら復習できる					
7	病理学の過去問題解答			解答力をつける					
8	確認テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める					
9	病理学の復習			グループで学びあいながら復習できる					
10	病理学問題演習			解答力をつける					
11	病理学の復習			グループで学びあいながら復習できる					
12	病理学問題演習			解答力をつける					
13	病理学の復習			グループで学びあいながら復習できる					
14	病理学過去問題解答			解答力をつける					
15	期末テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 国家試験に対応できるように予習復習を自主的に行う。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース:理学療法士科Ⅱ部		学年	4	開講区分	後期	担当教員 温 龍太郎 先生			
授業科目名 国家試験対策講座Ⅱ		必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) スポーツリハビリ系の臨床施設で経験のある専任教員による授業で、国家試験の概論系・整形外科学分野を担当する。出題頻度が高い問題を中心に再度復習する。									
〔到達目標〕 国家試験に必要な科目に関する内容を理解し、合格に必要な基本的知識を他者に説明することができる。 過去10年間に出题された科目に目を通し、出題の傾向を把握する。									
〔使用教材、参考文献等〕 プリント中心 各自参考書は持ってくる									
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	リハビリテーション・理学療法概論の復習				グループで学びあいながら復習できる				
2	リハビリテーション・理学療法概問題演習				解答力をつける				
3	リハビリテーション・理学療法概論の復習				グループで学びあいながら復習できる				
4	リハビリテーション・理学療法概問題演習				解答力をつける				
5	リハビリテーション・理学療法概 GW				解答力をつける				
6	リハビリテーション・理学療法概過去問題解答				グループで学びあいながら復習できる				
7	リハビリテーション・理学療法概過去問題解答				解答力をつける				
8	確認テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める				
9	整形外科の復習				グループで学びあいながら復習できる				
10	整形外科問題演習				解答力をつける				
11	整形外科の復習				グループで学びあいながら復習できる				
12	整形外科問題演習				解答力をつける				
13	整形外科の復習				グループで学びあいながら復習できる				
14	整形外科過去問題解答				解答力をつける				
15	期末テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			〔特記事項〕 国家試験に対応できるように予習復習を自主的に行う。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース:理学療法士科Ⅱ部		学年	4	開講区分	後期	担当教員 温 龍太郎 先生		
授業科目名 国家試験対策講座Ⅱ		必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数 15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) スポーツリハビリ系の臨床施設で経験のある専任教員による授業で、国家試験の一般臨床医学系を担当する。出題頻度が高い問題を中心に再度復習する。								
〔到達目標〕 国家試験に必要な科目に関する内容を理解し、合格に必要な基本的知識を他者に説明することができる。 過去10年間に出题された科目に目を通し、出題の傾向を把握する。								
〔使用教材、参考文献等〕 プリント中心 各自参考書は持ってくる								
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)				
1	内科の復習			グループで学びあいながら復習できる				
2	内科概問題演習			解答力をつける				
3	内科の復習			グループで学びあいながら復習できる				
4	内科概問題演習			解答力をつける				
5	心理学の復習			解答力をつける				
6	心理学問題演習			グループで学びあいながら復習できる				
7	内科心理学過去問題解答			解答力をつける				
8	確認テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める				
9	精神医学の復習			グループで学びあいながら復習できる				
10	精神医学問題演習			解答力をつける				
11	精神医学の復習			グループで学びあいながら復習できる				
12	精神医学問題演習			解答力をつける				
13	精神医学の復習			グループで学びあいながら復習できる				
14	精神医学過去問題解答			解答力をつける				
15	期末テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 国家試験に対応できるように予習復習を自主的に行う。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	4	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名						佐藤 俊生 先生			
国家試験対策講座Ⅱ		必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 国家試験の合格に向け、必要となる科目を再度復習する。									
〔到達目標〕 国家試験に必要な科目に関する内容を理解し、合格に必要な基本的知識を他者に説明することができる。 過去10年間に出题された科目に目を通し、出題の傾向を把握する。									
〔使用教材、参考文献等〕 プリント中心 各自参考書は持ってくる									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	理学療法基礎の復習			グループで学びあいながら復習できる					
2	理学療法基礎概問題演習			解答力をつける					
3	理学療法基礎の復習			グループで学びあいながら復習できる					
4	理学療法基礎概問題演習			解答力をつける					
5	理学療法評価の復習			解答力をつける					
6	理学療法評価問題演習			グループで学びあいながら復習できる					
7	理学療法基礎評価過去問題解答			解答力をつける					
8	確認テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていない部分 を把握するとともに、その理解度を深める					
9	理学療法評価の復習			グループで学びあいながら復習できる					
10	理学療法評価問題演習			解答力をつける					
11	理学療法評価の復習			グループで学びあいながら復習できる					
12	理学療法評価問題演習			解答力をつける					
13	理学療法評価の復習			グループで学びあいながら復習できる					
14	理学療法評価問題演習			解答力をつける					
15	期末テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところ を把握し、理解度を深める					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準 ずる。				〔特記事項〕 国家試験に対応できるように予習復習を自主的に行う。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	4	開講区分	後期	担当教員 佐藤 俊生 先生			
授業科目名 国家試験対策講座Ⅱ		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 長年学科責任者として多くの卒業生の国家試験合格に寄与した専任教員が担当する。国家試験の合格に向け、必要となる科目を再度復習する。									
〔到達目標〕 国家試験に必要な科目に関する内容を理解し、合格に必要な基本的知識を他者に説明することができる。 過去10年間に出题された科目に目を通し、出題の傾向を把握する。									
〔使用教材、参考文献等〕 過去問題試験									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	国家試験過去問題演習			グループで学びあいながら復習できる					
2	国家試験過去問題演習			グループで学びあいながら復習できる					
3	国家試験過去問題試験			解答力をつける					
4	国家試験過去問題演習			グループで学びあいながら復習できる					
5	国家試験過去問題試験			解答力をつける					
6	国家試験過去問題演習			グループで学びあいながら復習できる					
7	国家試験過去問題試験			解答力をつける					
8	確認テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める					
9	国家試験過去問題演習			グループで学びあいながら復習できる					
10	国家試験過去問題演習			グループで学びあいながら復習できる					
11	国家試験過去問題試験			解答力をつける					
12	国家試験過去問題演習			グループで学びあいながら復習できる					
13	国家試験過去問題試験			解答力をつける					
14	国家試験過去問題試験			解答力をつける					
15	期末テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 国家試験に対応できるように予習復習を自主的に行う。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	4	開講区分	後期	担当教員 佐藤 俊生 先生			
授業科目名 国家試験対策講座Ⅱ		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 長年学科責任者として多くの卒業生の国家試験合格に寄与した専任教員が担当する。国家試験の合格に向け、必要となる科目を再度復習する。									
〔到達目標〕 国家試験に必要な科目に関する内容を理解し、合格に必要な基本的知識を他者に説明することができる。 過去10年間に出题された科目に目を通し、出题の傾向を把握する。									
〔使用教材、参考文献等〕 プリント中心 各自参考書は持ってくる									
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	運動療法の復習				グループで学びあいながら復習できる				
2	運動療法概問題演習				解答力をつける				
3	運動療法の復習				グループで学びあいながら復習できる				
4	運動療法概問題演習				解答力をつける				
5	理学療法評価の復習				解答力をつける				
6	運動療法概問題演習				グループで学びあいながら復習できる				
7	運動療法過去問題解答				解答力をつける				
8	確認テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていない部分を把握するとともに、その理解度を深める				
9	運動療法の復習				グループで学びあいながら復習できる				
10	運動療法問題演習				解答力をつける				
11	運動療法の復習				グループで学びあいながら復習できる				
12	運動療法問題演習				解答力をつける				
13	運動療法の復習				グループで学びあいながら復習できる				
14	運動療法問題演習				解答力をつける				
15	期末テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			〔特記事項〕 国家試験に対応できるように予習復習を自主的に行う。						